令和5年度大和郡山市在宅医療・介護連携推進会議（報告）

実 施 日	令和5年4月24日（月）14時00分～15時10分
場　　所	三の丸会館（中央公民館）３階　小ホール
参 加 者	（大和郡山市歯科医師会）胡内昌久、福辻　智 （大和郡山市薬剤師会）仲谷尚起 （大和郡山市訪問看護事業者連絡会）藤村富久子、有吉菜美 （大和郡山市リハビリテーション連絡協議会）吉田信也 （大和郡山市居宅介護支援事業所連絡会）大槻啓子、木津晶、前川益己、森本貴彦 （大和郡山市地域医療連携担当者連絡会）清原登代 （大和郡山市在宅医療介護支援センター）中西由紀子 （大和郡山市地域包括支援センター）駒谷　功、松田徹也、田中杏奈、永野智也、大森尚美、楠本正蔵 （大和郡山市介護福祉課）杉岡直子 （大和郡山市保健センター）北川　徹 （大和郡山市地域包括ケア推進課）山内英之
事 務 局	（大和郡山市地域包括ケア推進課）吉村博幸、本間亜矢、西森太一、西川桃梨

（敬称略）

1. あいさつ

〇大和郡山市地域包括ケア推進課　山内　英之

本日はお忙しい中、大和郡山市在宅医療・介護連携推進会議に、在宅医療・介護を支える分野の皆様に参加いただき開催できることに感謝します。さて、本年3月に『在宅医療・介護関係者と病院関係者連携マニュアル』を皆様からの意見を参考に改訂をしました。今年度は「わたしノート」の改訂も予定しています。また、昨年度の会議の意見をもとに、人生会議を題材とした劇「大和家は今日も晴天なり」を現在撮影しているところです。私もこれに出演をするため、参考になる映画を探し「痛くない死に方」という映画を観ました。在宅医療の患者と家族に向きあう在宅医の話で、尊厳死、在宅医療、リビングウィルや人生会議について考えることができ、人生の最期は「がんばったね」と言われ静かに逝きたいと思いました。

さらに、昔見た在宅医のドキュメンタリーを思い出しました。ある高齢者が、いまわの際に顎を動かし呼吸をする中、在宅医がその人の耳もとでやさしく囁いている。そのまま亡くなるのだが、在宅医はまだ耳元で「よくがんばった。自分の力で逝けたね。すごいね」と囁く。当時の私には、亡くなったのに何がすごいのか分かりませんでしたが、歳を取り親の死などを経験し、この会議にも出席することで、やっとこの行動が理解できた気がします。それは住み慣れた自宅で極力痛みもなく、おだやかに死を迎えることこそ理想なのだということです。

大変長くなりましたが、本日ご出席の皆様には、この連携会議で情報共有や共通理解の中さらなる議論を重ね、医療・介護の連携を進めて頂きたいので、よろしくお願いします。

2. 令和4年度大和郡山市在宅医療・介護連携推進事業の取組み

令和４年度大和郡山市在宅医療・介護連携推進関連会議の実施状況

〇大和郡山市地域包括ケア推進課　西森　太一

①令和４年度大和郡山市在宅医療・介護連携推進計画（報告）

・在宅医療・介護連携推進会議：令和４年５月19日開催

在宅医療・介護連携推進事業全体の方向性の検討。

介護保険事業計画（在宅医療・介護連携推進）の進捗管理。

・作業部会 A「顔の見える関係づくり」

下記研修会等の情報提供。

・日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会

・「自立支援に関するケアマネジメント」意識調査について

・事例検討会（５カ所）

・おひとりさま支援

・作業部会 B「情報連携」：令和４年６月16日開催

入退院連携にかかる様式についての改訂内容を整理。

・作業部会 C「在宅医療・介護関係者と病院関係者の連携」：令和５年１月16日（web 開催）

入退院調整率調査の報告。

入退院連携にかかる様式について意見交換、令和５年３月改訂版完成。

・作業部会 D「認知症高齢者等への支援」：令和４年７月11日

地域包括支援センター圏域で「認知症について語ろう会」を開催。

地域包括支援センター圏域を中心に多職種が連携して市民を対象に生活習慣病や認知症の人への支援の周知・啓発を行う。

認知症の予防（口腔ケア）チラシを全戸配布。

・作業部会 E「看取りの支援」：令和４年10月17日

看取りの支援と課題と今後の仕組みの検討。

在宅医療介護支援センター・地域包括支援センターの周知を目的にチラシを全戸配布。

地域包括支援センターが認知症カフェ参加者を対象に「もしバナゲーム」を実施。

・医療と介護の相談窓口担当者連絡会：令和５年２月24日

在宅医療介護支援センター、地域包括支援センターに寄せられる相談について情報共有。

＊参加者報告

・部会 A「顔の見える関係づくり」（日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会）

〇大和郡山市リハビリテーション連絡協議会　吉田　信也

令和 4 年10月 8 日・9 日の 2 日間にわたって、日本ホスピス・在宅ケア研究会奈良大会が、奈良県コンベンションセンターで開催された。この3年間コロナ禍で対面形式での開催はできていなかったが、新型コロナウィルス感染症者数がタイミングよく減ってきたため、対面形式で開催することができた。今回、部会 A の繋がりから周知を図ることができ、会場参加とオンデマンドを含め 1,000 名程の参加者になっている。

参加者からは、情報交換は対面が良いとの声なども上がっていた。この研究会は、高齢者よりは小児のホスピスケアや地域連携に主題が置かれており、医療・介護職参加がほとんどであった。そういったなかで、学校の先生や教育機関からも参加があり、実際にどういうケアをしているとか、医療・介護職との連携といった話を聞けた点が良かった。医療・介護職だけでなく色々な職種から様々なケアの話を聞けたのはすごく大事であったと思う。

・部会 B「情報連携」、部会 C「在宅医療・介護関係者と病院関係者の連携」

〇大和郡山市居宅介護支援事業者連絡会　大槻　啓子

平成30年に連携マニュアルが作られ、少しずつ改訂をしている。ケアマネジャーが利用者の入院時や退院時に作成する情報提供書や情報収集書を、ベテランも新人も使えるような形にしていくことを大きな目的として少しずつ改善がされてきた。今回、入院時情報提供書について、介護サービス中心に記載するようになっているため、その他のサービスについても、病院に連絡できると良いのではということで、項目を変更している。退院時情報収集書では、「疾患についての説明内容」という項目があり、そこに「家族の誰に病院が説明したのか」を明記し、退院後在宅での生活をするにあたり、ケアマネジャーが家族の理解度を知りたいと言う話があった。また、コロナ禍で面会ができず、退院指導の状況や利用者のADLがわからないこともあり、リハビリの状況をもっと知りたいということで、変更を検討した。

・部会 D「認知症高齢者等への支援」

〇大和郡山市地域包括支援センター　松田　徹也

「認知症について語ろう会」の目的は、認知症の人と家族を含む、地域住民、医療・介護・福祉の専門職、警察、金融機関等の関係者と、認知症関連の現状と課題を把握し、認知症になっても希望をもって日常生活を過ごすことのできるまちづくりを進めることである。

地域包括支援センターが主催し、その圏域において、多職種によるつながりと連携体制を整え、地域の実情に応じた認知症への取り組みをするために、令和 2 年度から年 1 回程度のペースで開催している。

実施形態は、医療介護など支援者の連携を中心とした身近な圏域の専門職等のネットワークづくりと、当事者や地域住民、警察等の多様な関係者を含めて地域のネットワークづくりの 2 つがある。

内容は、各圏域でケースを通じた認知症の人への支援にかかわる中での思い、課題、サービスのこと、地域の支えあいの仕組みなどの情報交換をしている。その他、事例検討、地域ケア会

議を通じた課題整理、認知症の人の早期発見・早期対応の仕組みづくりなどの検討、意思決定支援、成年後見制度等、互いの学び・資質向上につながる取り組み、地域住民に対する認知症や介護予防を含めた啓発活動などの取り組みも検討している。

またこの会の繋がりから、地域包括支援センターが実施している「認知症サポーター養成講座」、「健康づくり講座」等の啓発活動への講師として協力をいただくなど広がりを見せている。

「認知症出前講座」については、地域包括支援センター圏域を中心に多職種が連携して、市民を対象に生活習慣病予防や認知症の人への支援などについて周知・啓発を行うことを目的として実施している。認知症予防ガイドブックの作成機関である医師会、歯科医師会をはじめとする医療介護の専門職を講師として、このガイドブックを教材としている。

今後も「認知症について語ろう会」を通じて、各地域包括支援センター圏域における支援者間ネットワークの拡充、認知症予防ガイドブックを活用した認知症予防や啓発を進めていきたい。

・部会 E「看取りの支援」

〇大和郡山市地域包括支援センター　駒谷　功

この部会のなかで、医師会から市民に看取りの支援や ACP（人生会議・家族会議）のことを啓発する手段として、劇をすると分かりやすいのでは、という提案があり、現在 ACP をテーマにした劇を撮影している。短編にはなるが、人生における最終段階で、自分のしまい方を家族で話し合っているか、と投げかける内容である。

令和 5 年秋頃に ACP に関する講演会をする予定で、そこで合わせて上映することにより、見た市民の皆様に感じ考えてもらえればと思っている。また、講演会はシンポジウム形式でみんなと一緒に ACP について考えていく形で検討している。

並行して、「わたしノート」（エンディングノート）についても全面改訂を予定している。今までの「わたしノート」でも内容を十分網羅していたが、色々な職能団体から意見や様々な視点で持って改訂をしたい。夏頃の部会から、職能団体から意見をもらい改訂を進めていく予定である。

〇大和郡山市地域包括ケア推進課　本間　亜矢

補足として、「もしバナゲーム」について、先ほど吉田氏から紹介のあった日本ホスピス・在宅ケア研究会でもワークショップが行われていた。すでに体験した人もいると思うが、もしもの時の話として、一般の人だけでなく支援者自身の価値観を見直すことも必要だと思う。ゲーム本体の貸し出しをしており、それぞれの事業所でやってみるなどの利用もできるので、気軽にお問い合わせをいただきたい。

②情報交換会

〇大和郡山市地域包括ケア推進課　西森　太一

新型コロナウィルス感染症の流行拡大の影響や関係団体や在宅医療介護支援センターの担当者交代により、各種会議等で十分な意見交換を行うことが難しくなっている。そこで、本事業の目的や今後の方向性を共有し、各団体との連携強化を目的に、関係団体と在宅医療介護支援センター、行政の情報交換会を実施した。

・地域医療連携担当者連絡会：令和４年６月３日

各病院の機能をケアマネジャー等にどう周知をするか

被虐待者の入院等の対応について

・リハビリテーション連絡協議会：令和４年７月５日

会としての活動について

介護予防事業と自立支援について

・薬剤師会：令和４年８月16日

ケアマネジャー等の連携を含む地域支援体制について

認知症の早期対応の連携について

・歯科医師会：令和４年12月８日

歯科診療の往診体制について

住民や支援者への高齢者歯科分野の講習会について

＊参加者報告

〇大和郡山市地域医療連携担当者連絡会　清原　澄代

病院間で話をする機会もあるが、比較的早い段階でケアマネジャーからの情報をもらい、連絡を取り合って退院の支援ができることもある。事業所によって熱心に連携を取ってもらえるところもあれば、なかなか連絡がないため、こちらから連絡をすることもある。今後、入退院支援を進めていく中でどのような形で連携を取っていくべきかを考えていく必要がある。

近頃、新たに認定の申請をして、ケアマネジャーを決める段階で、なかなか決まらないこともあり、もう少しスムーズにできたらと思っている。認知症の悪化や独居の人で、今までの生活状況が掴みきれない人いるので、入退院支援に関して関係機関との連携を深めていきたい。

〇大和郡山市リハビリテーション連絡協議会　吉田　信也

リハビリテーション連絡協議会の活動について相談をさせてもらった。コロナ禍ということで、会として事業所みんなで集まって、会議や研修などをしようとしても、参加者が集まらない、もしくはいつも同じメンバーが集まるなどの状況であった。

介護予防事業と自立支援については、前年から地域包括支援センターと一緒に進めている事業もある。いきいき百歳体操やほのぼのサロンなどの介護予防事業で、体操指導やフレイル予防の講演に参加をした。そうしたなかで、体力測定の項目や自立支援についての相談といったところで、新たに地域ケア会議を進めていく話もできた。

介護予防事業については、3月頃にまとまって依頼されることがあったため、年度全体を通して分散するように依頼をもらえるとよりありがたいといった相談をしていた。今年度は４月、5 月にも依頼をもらっているため、対応いただき感謝している。

〇大和郡山市薬剤師会　仲谷　尚起

研修会に人が集まらないことや、逆に行政が企画した研修会等に薬剤師がなかなか参加しない、そういった悩みをざっくばらんに話すことができた。薬剤師が参加しやすいテーマ設定や、参加の必要性を感じやすい言い回しの相談などもでき、ケアマネジャーの研修への参加などに繋がっている。非常にありがたい情報交換会であったと思う。

〇大和郡山市歯科医師会　福辻　智

少人数でアットホームな雰囲気の中で、私的にとても喋りやすかった。口のことや歯科のことはについて、臨床の場で対個人と話すことはあっても、行政と専門の話やお互いに質問を投げあうこともないため、情報の整理ができた。少しでも市民や認知症の人、支援者の人に何かをするには、情報提供をすることや色々なことをやっている場に近づく必要があることもわかり、個人としてよかったと思う。

〇大和郡山市歯科医師会　胡内　昌久

情報提供という点で、奈良県歯科医師会のホームページに便利なものがある。オーラルフレイル啓発用の紙芝居や、パタカラ体操、誤嚥性肺炎予防、認知症予防のための健口体操などのコーナーがあるので、活用していただきたい。また、治療に関しては、かかりつけ医に行く、相談するのが良いが、いない場合には、奈良県歯科医師会に連絡してもらえば、訪問診療に繋げられる。

3. 令和 4 年度大和郡山市在宅医療介護支援センターの取組み

〇大和郡山市在宅医療介護支援センター　中西　由紀子

＊令和4年度相談実績

相談件数は、令和4年度は延べ71件、実績52件だった。介護に関する相談が多く、昨年度より増加となった。相談者は、ケアマネジャー14 件、家族・親族 17 件、病院・医院 11 件、地域包括支援センター2 件、本人 6 件、その他 2 件で、計 52 件であった。そのうち、8 件は市外病院からの相談であった。相談内容は、医療に関すること 47 件、看護に関すること 7 件、介護に関すること 17 件で計 71 件となった。

昨年同様、在宅医を探す方法や在宅医を紹介してほしい、専門的な治療ができる医療機関についての相談、病院受診についての問い合わせなどの相談が多かった。介護に関する相談が昨年度に比べて 3 倍ほど増加している。介護の相談内容として多かったのが、介護保険の認定を受けていない人から介護認定の申請方法、ADL が低下したので今後介護保険の利用やデイサービスを利用したいがどうすれば良いか、といったものであった。

個人的な考えとしては、コロナ禍の自粛生活で体力・筋力の低下し介護が必要になった人が多く、制限が緩和されたことで外に出てデイサービスやリハビリなどをしたいということから相談も増えたのではないかと感じている。

在宅主治医の決定は 10 件であった。

＊令和 4 年度相談事例

93 歳の女性、長女夫妻と孫四人暮らし、介護保険は申請中。

2 月 21 日、市内病院入院。

3 月 4 日、退院し在宅療養中。

3 月 17 日、ケアマネジャーから当センターに依頼があった。

令和元年ごろから持病により入院していた病院に通院をしていた。2 月 21 日、発熱と意識障害があり救急搬送され、入院となった。ADL の低下に伴い退院直前に介護保険を申請、ケアマネジャーをつけて 3 月 4 日に退院した。退院後、通院が困難であること、在宅で看ることを家族も希望されているため、往診医を探してほしいと 3 月 17 日依頼があった。退院後 2 週間ほど経過しており、早急にお願いしたい、訪問看護の利用も希望されているとのことであった。

依頼を受けた時点で、入院時の状態や服薬内容等の詳細が不明であったため、入院先の病院の地域連携室に連絡し情報収集を行った。もし依頼時に、サマリー等の情報があれば、在宅主治医依頼書と共にもらえるとありがたい。

そして、在宅登録医に主治医の依頼をかけ、3 月 17 日が金曜日であったため、3 月20 日（月）に回答のあった登録医をケアマネジャーに報告をしている。その後、ケアマネジャーから本人・家族に在宅医を紹介してもらい、3 月 22 日に主治医決定（回答書）を受け取っている。これで決定となったため、当センターから今後の流れについて、ケアマネジャーに連絡し、希望された在宅主治医には決定した旨の報告と、訪問看護の利用も希望であることを連絡している。

このケースでは、退院から在宅主治医依頼まで 2 週間ほど経過してしまっている状況であった。退院時には在宅医に関して家族・本人も判断し兼ねていた部分もあったと思われるが、早めの相談があれば退院後の生活を切れ目なく支援できたのではないかと思う。

今後も在宅で安心して療養できるように、関係機関や多職種と連携をとりながら、良い相談窓口としていきたいと思う。

＊その他

リハビリテーション連絡協議会への相談として、たまに嚥下についてなどのリハビリの相談を受ける事があり、当センターでは答えられない為、ケアマネジャーがいればそちらに聞いてほしいと回答している。こういう場合の会としての相談窓口のようなものはあるのか。無いようであれば、そういった窓口などを設けることを検討いただけないか。

〇大和郡山市リハビリテーション連絡協議会　吉田　信也

現在は、そういった窓口はないが、会で話し合いをしてみようと思う。

〇大和郡山市地域包括ケア推進課　本間亜矢

「大和郡山市在宅医療・介護連携推進関係機関名簿」冊子の 5 ページに、PT・OT・ST がどの事業所にいるのかを載せている。これを参考に直接、事業所に聞く方法もある。

4.大和郡山市介護保険事業計画の評価（在宅医療・介護連携の強化）

〇地域包括ケア推進課　本間　亜矢

第 8 期介護保険事業計画のなかで、「在宅医療・介護連携の強化」が基本目標として挙げられている。令和 5 年 3 月に介護予防・日常生活圏域ニーズ調査が行われており、現時点で結果はまだ出てはいないが、成果指標の「人生の最終段階での在宅医療や介護について家族や医療介護関係者等と話し合いをしている一般高齢者・要支援認定者の割合」を確認していく必要がある。

在宅医療・介護連携推進会議で取り組む指標として、例えば、市の認知症に関する相談窓口の専門職の認知度、ACP の専門職の認知度、多職種連携に資する研修会、事例検討会の開催などがある。こちらは、令和 5 年 8 月頃に、医療機関対象、医療専門職対象、ケアマネジャー・地域包括支援センター職員対象といった形で調査をする予定である。前回は 2 年前に調査をしており、そこからの数値の変化や、ベースラインとし見たほうが良い項目の追加などを検討していきたい。

5. 令和５年度大和郡山市在宅医療・介護連携推進事業計画

〇地域包括ケア推進課　本間　亜矢

場面	会議名・日程	内容
全体	在宅医療・介護連携推進会議 ①令和5年4月24日 ②令和5年下半期	・事業全体の方向性の検討や進捗管理。 ・令和５年度は介護保険事業計画策定年であり、現行計画（令和３～５年度）の取組みの評価と時期計画（令和６～８年度）について協議。
（1） 日常 療養	作業部会Ｄ 認知症高齢者等への支援 令和5年8月9日	・前年度と同様、認知症予防の視点を重視した市民向けガイドブックを活用した「認知症出前講座」を実施。 ・「認知症について語ろう会」などを通じて包括圏域単位の支援者ネットワークを拡充。 ・認知症の人の意思決定支援や早期発見・早期対応の取組み、若年性認知症の人への支援等について検討。
（2） 入退院	作業部会Ｃ 在宅医療・介護関係者と病院関係者の連携 令和６年１月	・入退院連携に関する現状と課題の共有 ・医療介護連携に関する情報の周知 ・在宅医療・介護連携に関する調査報告
（3） 看取り	作業部会Ｅ 看取りの支援 令和5年7月10日	・在宅で医療と介護を受けながら暮らすイメージを市民が持てるような情報提供について検討。 ・地域包括支援センターが「わたしノート」（エンディングノート）の全面改訂を計画。本会議で意見を集約。 ・「もしバナゲーム」などを活用し、自身の価値観などを再認識する機会づくりを促す。
（4） 急変時	一人暮らし高齢者等の緊急連絡先に関する検討会 令和5年6月12日	・在宅医療・介護関係者の他、救命救急担当や福祉の見守り関係機関等と意見交換を行う。（前回は令和２年２月） ・高齢者の緊急連絡カード配布事業（※）について運用の見直し。 （※）民生委員が緊急連絡先やかかりつけ医などを情報収集し地域の見守りに活用。情報は自宅居間のわかりやすい場所に掲示。掲示場所については一定のルールがないこと、情報の更新が不十分なことが課題となっていた。社会福祉協議会の主催事業。
（5） その他	作業部会Ａ 顔の見える関係づくり	・多職種連携、在宅医療・介護連携に資する研修等の情報集約と関係機関への周知を継続。
	作業部会Ｂ 情報連携 令和5年6月5日	・連携に関する様式やルールの見直しや、連携の実態把握。 ・第９期介護保険事業計画の策定に伴い、令和５年８月に全ての関係者を対象に調査実施予定。調査項目について意見交換。
	医療と介護の相談窓口担当者連絡会 令和6年3月	・市民と支援者からの相談窓口である在宅医療介護支援センターと地域包括支援センターの担当者が、現状と課題について情報交換。 ・在宅医療・介護連携推進の方向性について医師会、地域包括ケア推進課も交えて協議。

6. その他　特になし。